



3月13日土曜日 リーワード・コミュニティ・カレッジTheatreにて 和太鼓パフォーマンス「Convergence」開催

ケニー・エンドウさん インタビュー

—日系人のケニーさんからみて日本の魅力ってなんですか？

私のような日系2世…実は私の父は日系1世で母は2世だから私は「2世半」。(笑)私たちは第二次世界大戦時中、アメリカへの忠誠を問われたので、日本の文化を忘れて、アメリカ人になるうと一生懸命になっていました。でも親戚も日本に住んでいるし、自分のルーツとしての日本にとっても興味を持っていました。日本の文化や言葉にも興味を持ちました。アメリカ人で英語以外の言葉を読める人って実は少ないんですよ。自分の国が1番と思っている人が多いからかな。日本に実際に行ってみると学ぶことは多かったですね。

でもやっぱり音楽が1番かな〜。日本の和太鼓が大好きです。最初は2年間のつもりで日本にいったのが気づいたら結局10年も経ってましたからね。10年でもまだ足りないな〜(笑)

—今はハワイにお住まいですよ。ハワイに来るきっかけは何だったのですか？

大学院で民族音楽学(Ethnomusicology)の学位を取りたいと思ったことがきっかけです。ハワイの大学は民族音楽学に力をいれていて、奨学金などの制度もしっかりしていました。また子供たちのためにもそろそろどこか腰を据える必要もありましたしね。ハワイに住み始めて、妻と共に太鼓教室も始め、子供も学校になれ始めて、ここで暮らしていこうかなと決めました。ハワイはリラックスしていて、子供を育てるのにとてもいい環境だなと思います。人も好きだし、ハワイの文化も好き。でも実はパフォーマンスで行ったニューヨークも好きですね。(笑) ニューヨークのエネルギーもハワイのエネルギーも必要。

—太鼓教室はいつごろから始められたんですか？

15年ほどまえかな。今はカピオラニコミュニティカレッジで教えてます。子供から大人までいろいろの人が楽しく太鼓を学んでいます。メインランド、カナダ、ヨーロッパ、日本、南アフリカなどでもワークショップをしてきました。みんなに和太鼓の楽しさを知ってもらいたいと続けています。

—世界各国でパフォーマンスをされていらしゃいますが、思い出に残っているエピソードってありますか？

そうですね。最近だと「アバター」に出演したことかな。(笑)2008年の11月頃にロサンゼルスに来てくれた連絡がきました。映画かDVDかどちらかに写っているのかは分からないのですが、青いものとかいろいろつけて太鼓をたたいているところをジェームス・キャメロンに撮影されました。

あとは、2008年にブラジルで日系人100年を祝いイベントで公演したとき。私はもともとブラジルの音楽がすごく好きで、オーケストラと一緒に演奏したのが思い出に残ってますね。

日本でも浅草公会堂や日本橋劇場でパフォーマンスをしましたよ。

—いつもどのような方が観客で多くいらっしゃるのですか？

どんな年代の方も見に来てくれます。日本の文化を全く知らない人も私のパフォーマンスをみて日本のことを勉強してくれて。太鼓の音色は心の奥深くに響き渡りますね。だから子供達も楽しんで演奏を聴いてくれているようです。

でもたとえ大きなイベントでいっぱいの方が見に来てくれても、学校などの小さいイベントで人が少なくてやっぱり太鼓を通して音楽の楽しさを

The longer you have been playing the more you have to practice — 長く続けているほど、もっと練習しなさい

伝えたいという気持ちは一緒です。どのイベントも私にとっては思い出深いですね。

—数ヶ月先までイベントで大忙しなのですが、毎日何時間ぐらい練習されているんですか？

今はイベント前で忙しいのですが、だいたい1日2時間ぐらい。ここ15年間ほどずっと続けています。私のモットーは「長く続けていれば続けているほど、もっともっと練習しなさい」私は太鼓を始めてから毎日、太鼓を楽しく演奏しています。まだまだ学ぶ事がいっぱいあります。6月11日には私の35周年記念としてホノルルシアターでコラボレーションのパフォーマンスをします。そのときは、組太鼓のグループや私の教えている生徒達も参加しますよ。

—ケニーさんの以前のパフォーマンスを見させていただいたのですが、和太鼓とパーカッションやヴァイオリンなどの共演って、斬新なアイデアですよね。コラボレーションを始めたきっかけはなんだったのですか？

そもそも私が音楽を始めたきっかけはドラムだったんです。ロックバンドでジャズなんかも弾いたりして。そんな中で様々な文化が混ざり合って、全く違うバックグラウンドを持つひとたちが集まってひとつのものを作り出す。世界各地で色々な国の人とパフォーマンスしてきましたが、言葉が通じなくても、音楽を通して心が通い合えるんですよ。そういう音楽の力に魅了されました。音楽はただの文化交流というよりは新しいものを生み出す力がありますね。

—今回のイベントは「Convergence」というタイトルですがどのような意味合いがあるんですか？

私は音楽を通して文化の架け橋になりたいと思っています。「Convergence」のイメージとしては二つのちがう川がまざりあって一緒になる感じ。

過去に、ロシアで演奏したときには現地の方の温かさに胸を打たれました。アメリカで生まれ育った

私は冷戦の経験から旧ソビエト連邦とは、こう何か超えられない壁があったんですね。でも実際にモスクワでパフォーマンスをして現地の方々に会い、戦っているのは政府間だけなんだなって。人はどこにいてもみんな一緒に、心から通じ合えるのです。

13日のイベント「Convergence」はパーカッションの仙波清彦とのコラボレーションというのが1番のみどころ。彼(仙波氏)は日本生まれ日本育ち。でも西洋の音楽に虜になってずっとパーカッションを演奏していて。逆に私はアメリカで生まれて育ちましたが、日本の和太鼓に魅了されて…。おもしろいですね。お互いの文化が混ざり合って新しいものができあがって。1980年に彼と出会ったのもうかれこれ30年ぐらいの付き合いですね。こんなにも違うバックグラウンド をもっている2人が出会って音楽を通して新しい世界をつくりだす。今回もきっとおもしろいパフォーマンスになると思うので色々な方にぜひ演奏をきいて音楽の深みを心で感じてほしいです。

ケニーさん、ありがとうございます。これからも益々のご活躍に期待しています。

ライター:赤崎 香奈美



—若い頃に日本に渡り、和太鼓の修行をされていますが、和太鼓留学なんて、ご両親の反対はなかったんですか？

私の父は私が幼い頃に亡くなっているのですが、母はやっぱり心配していましたね。和太鼓で生活してはダメ。でも、もっと深く和太鼓を勉強するためには、日本に行くしかないと思いました。母も私のパフォーマンスを見に来て、応援してくれるようになりました。

—日本で外国人初めての名取りとなりましたが、外国人ということで障害などはあったのですか？

そうですね。もちろん簡単ではなかったです。でも実は取った後の方が大変なんです。名取りをとった後も学ぶことがいっぱい…終わる事はないですね。日々、練習、日々、努力の毎日です。